

平成 29 年度 関東支部運営委員会（第 1 回） 議事録

日 時：平成 29 年 6 月 30 日（金）14:00～17:00	会 場：地盤工学会会館	
支部長 安田 進 ○	副支部長 東川 直正 ×	副支部長 坂上 敏彦 ×
副支部長 北詰 昌樹	副支部長 長尾 俊昌 ○	監事 石井 武司 ×
発表会 G リーダー		
監事 北本 幸義 ×	幹事長 峯岸 邦夫 ×	副幹事長 石川 敬祐 ○
副幹事長 福原 誠 ○	山梨県 G リーダー幹事 後藤 聡 ×	茨城県 G リーダー幹事 松島 亘志 ×
栃木県 G リーダー幹事 西村 友良 ×	群馬県 G リーダー幹事 若井 明彦 ×	神奈川県 G リーダー幹事 早野 公敏 ○
千葉県 G リーダー幹事 若月 洋朗 ○	埼玉県 G リーダー幹事 川本 健 ○	研究委員会 G リーダー幹事 渡邊 康司 ×
会員 SG リーダー幹事 田中 剛 ×	事務局 青木 美智子 ○	副支部長代理 飯野 正樹 ○
栃木県 G 代理 清木 隆文 ○		

○：出席，×：欠席

0. 運営委員会の開催に先立ち，自己紹介を行った。

1. 前回議事録の確認

・平成 29 年度第 4 回運営委員会議事録（2/24）

【別紙-1】

→確認の上，承認された。

2. 最近のスケジュール

・平成 29 年度関東支部通常総会：平成 29 年 4 月 28 日（金）

・第 59 回通常総会（本部）：平成 29 年 6 月 9 日（金）

・第 52 回地盤工学研究発表会（本部）：平成 29 年 7 月 12 日（水）～14 日（金）

・第 14 回地盤工学会関東支部発表会 Geo-Kanto2017：平成 29 年 11 月 17 日（金）

→上記内容を確認した。

→第 59 回通常総会には安田支部長が出席し，関東支部の H28 年度活動報告を行ない，承認された。支部交付金に関して質疑があったが，関東支部の特別会員会費率（27.5%）が他支部（55%）の半分に設定されているとのことである。

3. 本部・他支部に関する連絡・報告・検討依頼事項

(1) 「地盤工学会誌」支部編集委員推薦→渡邊諭氏（再任）

【別紙-2】

(2) 「地盤工学会誌」学生編集委員の推薦依頼

【別紙-3】

→支部編集委員は渡邊諭氏が再任することが承認され，学生編集委員は那須郁香氏（早大，小峯先生）が担当することが承認された。

(2) 第 18 回事業企画賞受賞

【別紙-4】

→「歴史遺産に関する今後の地盤工学研究の方向性検討委員会」と「横須賀市」の連名にて「関東支部近代日本のルーツ横須賀の歴史遺産“守り・支え・伝える地盤の技術”」が受賞し，第 59 回通常総会にて表彰されたことが報告された。

(3) 【本部 会員・支部部より支部長へ】会員増加の取り組みに関するお願い

【別紙-5】

・個人会員の増加策

→建設会社の建築系技術者は，主に研究職の方が多い印象がある。メインは建築学会であり，何編論文を出しているかを同業他社と比較するような話もあった。

→建設会社の土木系技術者は，土木学会が主のようで，土木学会では会社ごとに会員数の洗い出しを過去に実施していて，その際に会員数が増加したこともある。

→調査・設計の技術者は，過去はスキルアップのために学会員となることが組織内で暗黙

のルールとなっていた。また学会員となることがステータスということもあった。しかし、現在の 20～30 代の若手技術者の多くはそのような認識が薄くなっている。職場班で会費を給与天引きしている会社もあり、その場合には会費負担の意識が薄く、未払いも防げる。

→学生会員の増加策としては、会費を研究費から工面することも一つの手ではないかという意見もあった。

・特別会員の増加策

→国交省では、特別会員のメリットとして業務に直結する情報が得られる仕組みがあれば良いと感じる。具体的には、業務内容の相談を行う際に大学教員などのその筋のプロフェッショナルエンジニアを紹介して貰えると非常に助かる。また、所内で実施している専門教育の講師として出前講座を依頼しやすくする仕組みがあっても効果的である。これらの内容は国交省だけでなく、都県や政令指定都市でも同様な状況と考えられる。市町村レベルでは予算が限られているので特別会員費用を工面する理由が見当たらないのが現状ではないか。との意見を頂いた。

→関東支部の特別会員リストを各県 G リーダーにお渡しし、県 G 単位でのリスト内に入っていない地場の業者をリサーチしていただくこととした。

→この他に、学会表彰を有効に使える方策の検討や比較的規模の大きな自治体の入会を促す必要があることが確認された。

(4) 全国研究発表会での「本部・支部連絡協議会」での議事について 【別紙-6】

→支部予算をかなり厳しく管理していても年間収支は赤字計画となり、結果として会員サービスの低下になりかねない。支部のメイン行事である支部発表会では開催規模を維持するために毎年 100 万円弱の赤字が続いているため、この部分を補うだけでも支部交付金の配分の一部修正をお願いしたいことが確認された。

4. 支部からの周知・連絡・検討事項

(1) 平成 29 年度支部役員体制について 【別紙-7】

→体制表を確認し、修正が必要な場合には事務局の青木さんへ連絡することとした。

(2) 平成 29 年度関東支部総会議事録 【別紙-8】

→支部総会時の質問内容に関して、今後も引き続き検討していくこととした。

(3) 平成 29 年度第 1 回評議員会の開催日及び特別講演会の内容について 【別紙-9】

(4) 平成 29 年度第 2 回評議員会の開催日及び特別講演会の内容について

(5) 平成 30 年度関東支部総会の開催日及び特別講演会の内容について

→開催日程は、安田支部長と峯岸幹事長の日程を調整して決定する。

→特別講演会の内容（案）として、

（候補 1）豊洲新市場の土壌汚染対策，会員のみ

（候補 2）赤色立体地図に関連した話，千葉氏（評議員，アジア航測）

（候補 3）はやぶさ，的川先生（JAXA）

（候補 4）海外プロジェクト，堀越氏（大成建設）

（候補@）映像監督，浜崎慎治氏，埼玉大建設工学科卒

(6) 後援依頼：土木学会地下空間研究委員会（主催）夏休み親子現場見学会 7/29 【別紙-10】

(7) 協賛依頼：第 9 回メタンハイドレート総合シンポジウム（CSMH-9）10/26・27 【別紙-11】

(8) 後援依頼：平成 29 年度「気泡工法」技術講習会 11/7 【別紙-12】

→上記，後援，協賛行事の内容を確認し，承認された。

(9) 平成 29 年度前期 支部交付金の送金について 【別紙-13】

→支部交付金の前期分を確認した。

(10) 平成 29 年度予算執行状況 (5 月末現在) 【別紙-14】

→収入では支部交付金が入金されたこと、支出では主だった予算の執行はなかったことが説明された。

(11) 70 周年、全国大会及び企画に関して

→6/26 に桑野実行委員長、支部役員、古関理事で初回協議を行ない、以下の点を報告した。

- ・70 周年記念行事及び全国大会の本部と支部での役割の明確化を本部へ依頼した。
- ・支部からの連絡員には、内村先生（埼玉大）を候補者として調整することとした。
- ・実行委員会は本年度秋ごろまでに決定する予定。

(12) 平成 29 年度関東支部賞について 【別紙-15】

→関東地域に関係する建設プロジェクトを積極的に応募されるように情報配信を行っていくことが確認された。

(13) (仮称) 弘仁地震発生 1,200 周年防災シンポジウム (and/or 野外観察) について 【別紙-16】

→シンポジウムの開催に関しては、異議はなく、承認された。今後、関東支部がどのように協力すれば良いか等の詳細な計画を示していただくこととした。

5. メール審議決定事項

(1) 「UAV の実利用に関するシンポジウム」の後援依頼

(2) 栃木県 G：勉強会、「地盤にひそむリスクを学ぶ」

→メール審議にて承認されていることを報告した。

6. 開催結果、進捗状況の報告（前回運営委員会以降、開催分を記載）

(1) 支部総会・特別講演会「海洋鉱物資源開発に関する我が国の政策と産官学での取り組み」、4/28 (金)、参加者：76 名【開催済】

(2) 後援「UAV の実利用に関するシンポジウム」、5/10 (水)、参加者 50 名【開催済】

(3) 出前（一社）群馬県建築構造設計事務所協会総会後「群馬県の地質と災害地盤」、6/2 (金)、参加者 84 名【開催済】

(4) 栃木県 G、勉強会「地盤にひそむリスクを学ぶ」、6/22 (木)、参加者 29 名【開催済】

→上記の開催結果が報告された。

7. グループ別の実施計画・進捗状況・その他報告事項

(1) 会員サービス G 【別紙-17】

→若手技術者交流会は、本部のダイバーシティ委員会行事と内容が重複するために、本年度は開催を見送ることが報告された。

→アフター 5 談話会は定期的に実施するように再計画していただく必要がある。

例えば、ジオ散歩は人気行事であり、参加できない会員向けに、その際の講師によるアフター 5 談話会の開催、ブラタモリに出演された千葉氏や木村克己氏に関東地方の地形と地盤に関する話題提供や東大地震研の堀先生にスーパーコンピューターを用いた大規模 3 次元解析の話題提供を頂いてもよいのでは？との意見があった。

(2) 茨城県 G・・・12 月に研究所巡りを開催予定

→内容が確認された。

(3) 栃木県 G 【別紙-18】

→内容が確認された。

→中山委員から松川委員へ変更となるために委嘱状発行するよう事務局へ依頼があった。

- (4) 群馬県 G 【別紙-19】
→内容が確認された.
- (5) 山梨県 G 【別紙-】
- (6) 千葉県 G 【別紙-20】
→内容が確認された。また、活動費用を減額したため、駅近くの現場見学となるため、候補先が限られる。
→千葉県美浜区磯辺で実施している地下水位低下工法も話題性が高いが、住宅街なので参加人数が限定される。
- (7) 埼玉県 G 【別紙-21】
→内容が確認された。
- (8) 神奈川県 G 【別紙-22】
→内容が確認された。なお、活動費用が0円のため現場見学会でのバスの手配ができない状況であり、今年度の現場見学会は見送ることとした。
- (9) 研究委員会 G 【別紙-23】
→内容が確認された。
- (10) 支部発表会実行委員会 【別紙-24】
→論文投稿料をもう少し値上げし、支部発表会運営補助費を引き下げる計画に修正していただきたい。
→広告収入で運営補助費を補う予定であるが、苦戦が予想されるため、スポンサーとなってくれた企業や団体に対して資料を展示するための机などのスペースを設ける必要があることが指摘された。また、自治体の交付金制度を活用できないか確認する必要がある。
- (11) 企画総務 G 【別紙-25】
→内容が確認された。

8. その他

(1) 退会・等級変更届

- ・株式会社ミカミ (4級) : 退会理由 学会を利用する事がないため
- ・信幸建設株式会社 (4級) : 退会理由 諸般の事情
- ・日本海上工事株式会社 (4級) : 退会理由 職種が変わって地盤工学と関係がなくなったため
- ・株式会社ブレーンズ (4級) : 退会理由 加入している学協会見直しのため
- ・国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所 (4級) : 退会理由 諸事情により
→東川副支部長に慰留。6/14 退会取消の連絡有。
- ・地盤ネット株式会社 2級→3級
- ・除籍 GA サーベイ株式会社 (4級)
- ・除籍 KJS 協会 (4級)
- ・除籍 NEC ソリューションイノベータ (4級)
→内容が確認された。また、退会連絡があった企業と繋がりがある委員は、退会を慰留していただくように周知された。

(2) 次回運営委員会開催日程

- 安田支部長と峯岸幹事長の日程調整後、日程調整サイトでスケジュール調整を行う。
- 運営委員会 : 10月4日(水) 14:00~, 地盤工学会会館
- 評議員会 : 10月31日(火) 16:00~, 地盤工学会会館